

五木寛之 百寺巡礼は、講談社から 2003.6 月単行本が発刊され 10 巻 2005.9 月で完結しました。私が百寺巡礼との出会ったのは、2008.9 月発行の文庫本で、読み進むうちに、自分の眼、肌で感じて見たくなり写真撮影のドライブを 2009.7 月京都より始め、2019.12.九州（崇福寺）で満願成就を迎えることが出来ました。

【百寺巡礼】

- 第一巻 奈良
- 第二巻 北陸
- 第三巻 京都 I
- 第四巻 滋賀・東海
- 第五巻 関東・信州
- 第六巻 関西
- 第七巻 東北
- 第八巻 山陰・山陽
- 第九巻 京都 II
- 第十巻 四国・九州

01001	室生寺	むろうじ	女たちの思いを包みこむ寺	奈良
01002	長谷寺	はせでら	現世での幸せを祈る観音信仰	奈良
01003	薬師寺	やくしじ	時をスイングする二つの塔	奈良
01004	唐招提寺	とうしょうだいじ	鑑真の精神が未来へうけつがれていく	奈良
01005	秋篠寺	あきしのでら	市井にひっそりとある宝石のような寺	奈良
01006	法隆寺	ほうりゅうじ	聖徳太子への信仰の聖地	奈良
01007	中宮寺	ちゅうぐうじ	半跏思惟増に自己をゆるされるひととき	奈良
01008	飛鳥寺	あすかでら	日本で最初の宗教戦争の舞台	奈良
01009	當麻寺	たいまでら	浄土への思いがつの不思議な寺	奈良
01010	東大寺	とうだいじ	日本が日本となるための大仏	奈良
02011	阿岸本誓寺	あぎしほんせいじ	茅葺き屋根にこめられた信心	北陸
02012	妙成寺	みょうじょうじ	城のような寺と異色の画家	北陸
02013	那谷寺	なたでら	罪を荒い流し、生まれ変わる寺	北陸
02014	大乘寺	だいじょうじ	現代人のこころを癒す修行道場	北陸
02015	瑞龍寺	ずいりゅうじ	壮大な鉛瓦とつつましやかな花々	北陸
02016	瑞泉寺	ずいせんじ	門徒の寺内町から工の門前町へ	北陸
02017	永平寺	えいへいじ	生活こそは修行という道元の教え	北陸
02018	吉崎御坊	よしざきごぼう	蓮如がつくりだした幻の宗教都市	北陸
02019	明通寺	みょうつうじ	武人の祈りが胸に迫る寺	北陸
02020	神宮寺	じんぐうじ	神と仏が共存する古代信仰の世界	北陸
03021	金閣寺	きんかくじ	目もくらむような亀裂に輝く寺	京都
03022	銀閣寺	ぎんかくじ	案愁の四畳半でため息をつく將軍	京都
03023	神護寺	じんごじ	二つの巨星が出会い、別れた舞台	京都
03024	東寺	とうじ	空海がプロデュースした立体曼荼羅	京都
03025	真如堂	しんにょどう	物語の寺に念仏がはじまる	京都
03026	東本願寺	ひがしほんがんじ	親鸞の思いが生きつづける大寺	京都
03027	西本願寺	にしほんがんじ	信じる力が生みだすエネルギー	京都
03028	浄瑠璃寺	じょうるりじ	いのちの尊さを知る、浄瑠璃浄土	京都
03029	南禅寺	なんぜんじ	懐深き寺に流れた盛衰の時	京都
03030	清水寺	きよみずでら	仏教の大海をゆうゆうと泳ぐ巨鯨	京都
04031	三井寺	みいでら	争いの果てに鐘は鳴り響く	滋賀・東海
04032	石山寺	いしやまでら	母の思いと物語に救われる寺	滋賀・東海
04033	延暦寺	えんりやくじ	最澄の思いが息づく霊山	滋賀・東海
04034	西明寺	さいみょうじ	焼き討ちから伽藍を守った信仰の力	滋賀・東海
04035	百濟寺	ひゃくさいじ	生きものの命が輝く古刹	滋賀・東海
04036	石塔寺	いしどうじ	”石の海”でぬくもりを感じる寺	滋賀・東海
04037	横蔵寺	よこくらじ	最澄と山の民ゆかりの「美濃の正倉院」	滋賀・東海
04038	華嚴寺	けごんじ	人びとが生まれ変わる満願の寺	滋賀・東海
04039	専修寺	せんしゅうじ	「念仏するところ」という原点	滋賀・東海
04040	永保寺	えいほうじ	「座禅石」で覚えたふしぎな感覚	滋賀・東海
05041	浅草寺	せんそうじ	熱と光と闇をくるむ観音信仰	関東・信州

05042	増上寺	ぞうじょうじ	念仏のころと東京タワー	関東・信州
05043	築地本願寺	つきじほんがんじ	埋立地に立つエキゾチックな寺院	関東・信州
05044	柴又帝釈天	しばまたたいしゃくてん	寅さんの街佇む古刹	関東・信州
05045	成田山	なりたさん	聖と俗が混ざりあう庶民信仰	関東・信州
05046	建長寺	けんちょうじ	中国僧が武士に伝えた禅	関東・信州
05047	円覚寺	えんがくじ	明治の文学者たちを癒した寺	関東・信州
05048	高德院	こうとくいん	多くの謎と武士の祈りを秘めた大仏	関東・信州
05049	久遠寺	くおんじ	情ににあつく、さびしがり屋の日蓮像	関東・信州
05050	善光寺	ぜんこうじ	濁る川に生きる覚悟をする寺	関東・信州
06051	高野山	こうやさん	空海が獵師から譲り受けた聖地	関西
06052	青岸渡寺	せいがんとじ	海の浄土と山の浄土のつながり	関西
06053	道成寺	どうじょうじ	女性の情熱と強さを伝える物語	関西
06054	粉河寺	こかわでら	焼き討ちから甦った寺に、なごむ心	関西
06055	観心寺	かんしんじ	心惹かれる三人の足跡が残る寺	関西
06056	弘川寺	ひろかわでら	西行と役行者を結ぶ山	関西
06057	鶴林寺	かくりんじ	勇ましい聖徳太子と愛らしい聖観音	関西
06058	亀山本徳寺	かめやまほんとかじ	往時の宗教都市の面影が生きる寺	関西
06059	大念佛寺	だいねんぶつじ	衆生のもとへ歩み寄る本尊	関西
06060	四天王寺	してんのうじ	すべてを包みこむ「和宗」の祈り	関西
07061	山寺	やまでら	一人の僧がもたらした千二百年の法灯	東北
07062	中尊寺	ちゅうそんじ	みちのくの黄金郷に鳴る青い鐘	東北
07063	毛越寺	もうつうじ	壮大な伽藍の跡と老女の舞	東北
07064	黒石寺	こくせいじ	薬師如来像に浮かぶ苦渋の色	東北
07065	瑞巖寺	ずいがんじ	神聖な石窟と伊達家の栄華	東北
07066	勝常寺	しょうじょうじ	庶民が慕った、最澄の好敵手	東北
07067	白水阿弥陀堂	しらみずあみだどう	泥中の蓮の花のように	東北
07068	本山慈恩寺	ほんざんじおんじ	そこにあった信仰と新しい信仰	東北
07069	長勝寺	ちょうしょうじ	”じょっぱり”の地に立つ名刹	東北
07070	恐山	おそれざん	北の山に死者の霊かえる	東北
08071	三佛寺	さんぶつじ	役行者が建てた断崖の堂宇をめざして	山陰・山陽
08072	大山寺	だいせんじ	霊山を仰ぎ、神仏を信仰する寺	山陰・山陽
08073	清水寺	きよみずでら	山陰の「キヨミズさん」に幟がはためく	山陰・山陽
08074	一畑薬師	いちばたやくし	”目のお薬師さま」に詣でるひとびと	山陰・山陽
08075	永明寺	ようめいじ	津和野の歴史を物語る小寺	山陰・山陽
08076	東光寺	とうこうじ	萩の町にたたずむ中国風の菩提寺	山陰・山陽
08077	瑠璃光寺	るりこうじ	嵐の翌日に見た五重塔の美しさ	山陰・山陽
08078	阿弥陀時	あみだじ	東大寺を再建した老僧のパワー	山陰・山陽
08079	浄土寺	じょうどじ	海に見える寺に息づく共生のころ	山陰・山陽
08080	明王院	みょうおういん	”東洋のポンペイ”と隣りあった寺	山陰・山陽
09081	三千院	さんぜんいん	声明が響く隠れ里	京都Ⅱ
09082	知恩院	ちおんいん	壮大な伽藍に念仏の水脈が流れる	京都Ⅱ
09083	二尊院	にそんいん	送る仏と迎える仏がならぶ寺	京都Ⅱ

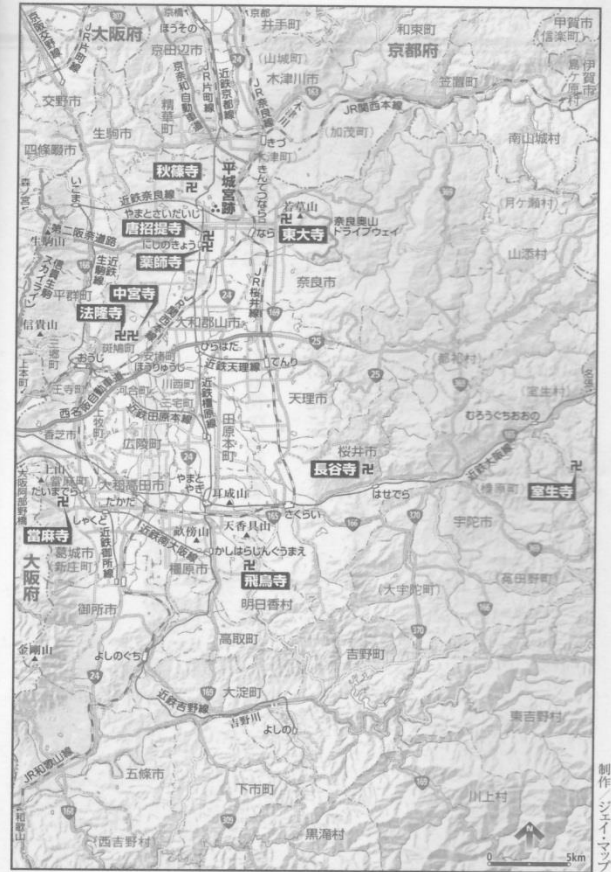
09084	相国寺	そうこくじ	著名な人びとを惹きつけた禅宗の魅力	京都Ⅱ
09085	萬福寺	まんぶくじ	中国僧の思いが生きつづける大寺	京都Ⅱ
09086	永観堂	えいかんどう	紅葉のの向こうの「みかえり阿弥陀」	京都Ⅱ
09087	本法寺	ほんほうじ	”なべかむり日親」の伝説を支える力	京都Ⅱ
09088	高台寺	こうだいじ	戦国女性の思い出を包む堂宇	京都Ⅱ
09089	東福寺	とうふくじ	紅葉の橋を渡る人びとと大伽藍	京都Ⅱ
09090	法然院	ほうねんいん	念仏の原点に戻ろうとする寺のいま	京都Ⅱ
10091	観世音寺	かんぜおんじ	境内に響く千三百年の鐘の余韻	四国・九州
10092	梅林寺	ばいりんじ	托鉢の雲水に雪が降りしきる	四国・九州
10093	善通寺	ぜんつうじ	空海の生地に根をはる原日本のすがた	四国・九州
10094	靈山寺	りょうぜんじ	遍路の旅の出発点「一番さん」	四国・九州
10095	興福寺	こうふくじ	隠元が来日してはじめて訪れた塔寺	四国・九州
10096	崇福寺	そうふくじ	海を渡る中国の人びとが信じた媽祖神	四国・九州
10097	本妙寺	ほんみょうじ	加藤清正が眠る庶民信仰の寺	四国・九州
10098	人吉別院	ひとよしべついん	命がけで守りつづけた「隠れ念仏」	四国・九州
10099	富貴寺	ふきじ	自然のなかで育まれた仏教のかたち	四国・九州
10100	羅漢寺	らかんじ	石段をのぼりつづけて、満願成就	四国・九州

『百寺巡礼』文庫化にあたって

古寺、名刹のある場所には、不思議なエネルギーがある。  
それを体で感じ、新しい命を悠久の歴史に思う「百寺巡礼」の旅に出た。  
いま、私の新しい旅が始まる。

五木寛之

百寺巡礼

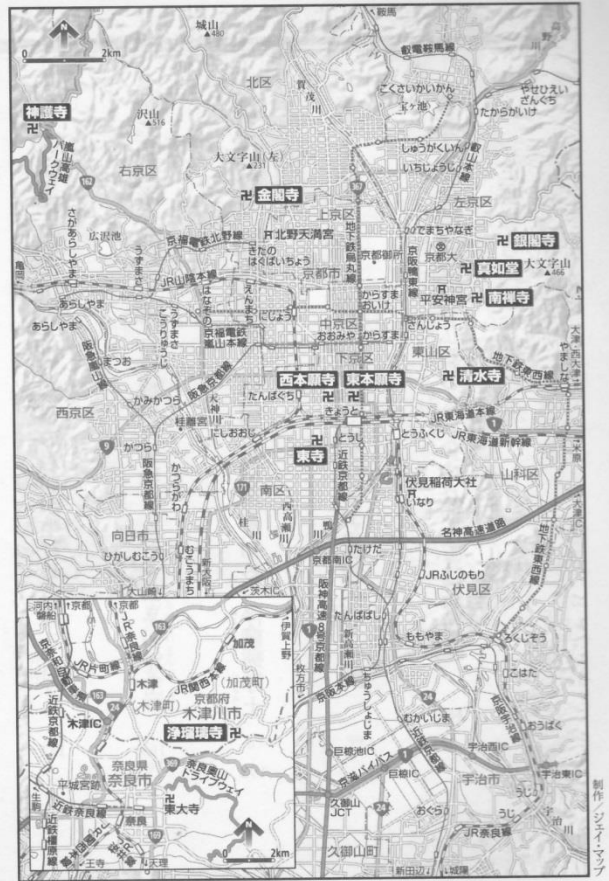


百寺巡礼



百寺巡礼

金閣寺

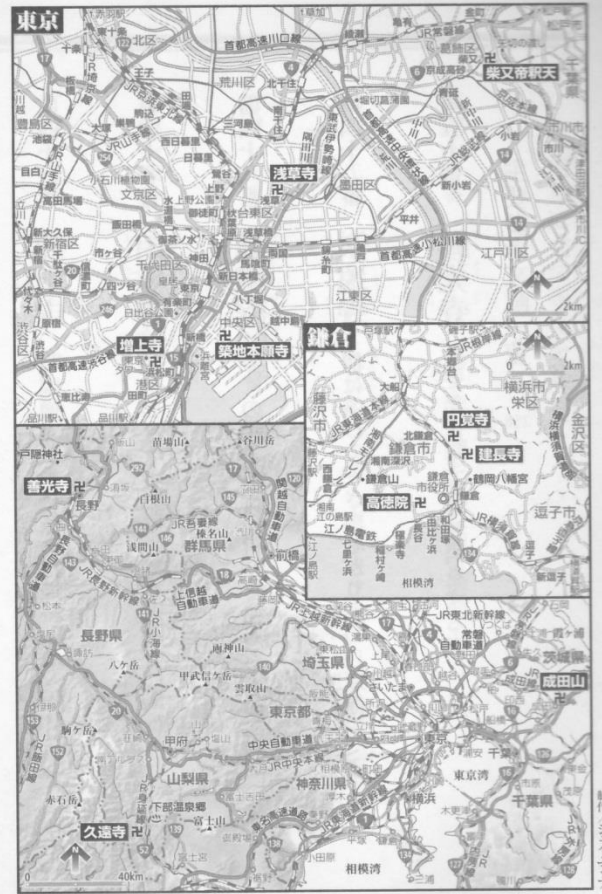


百寺巡礼

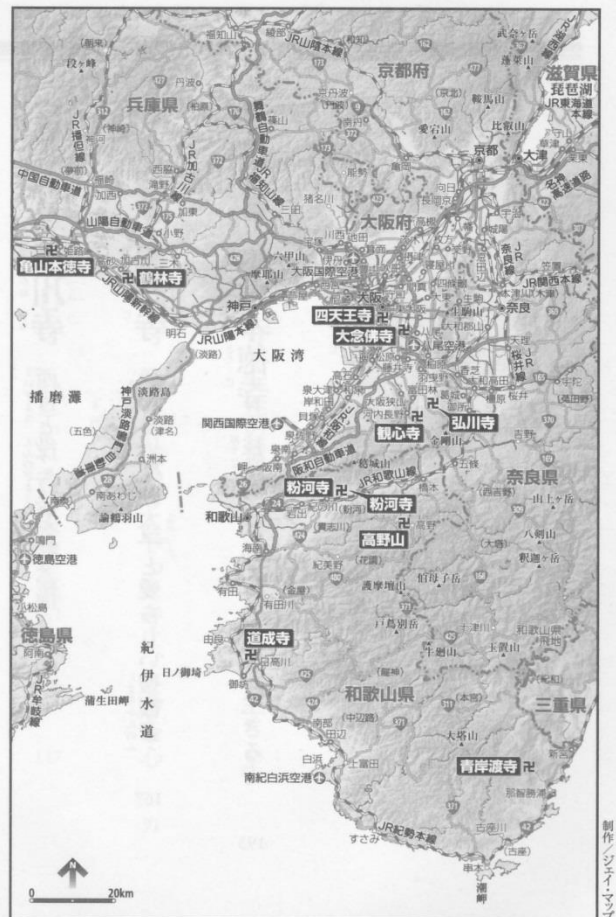
三井寺

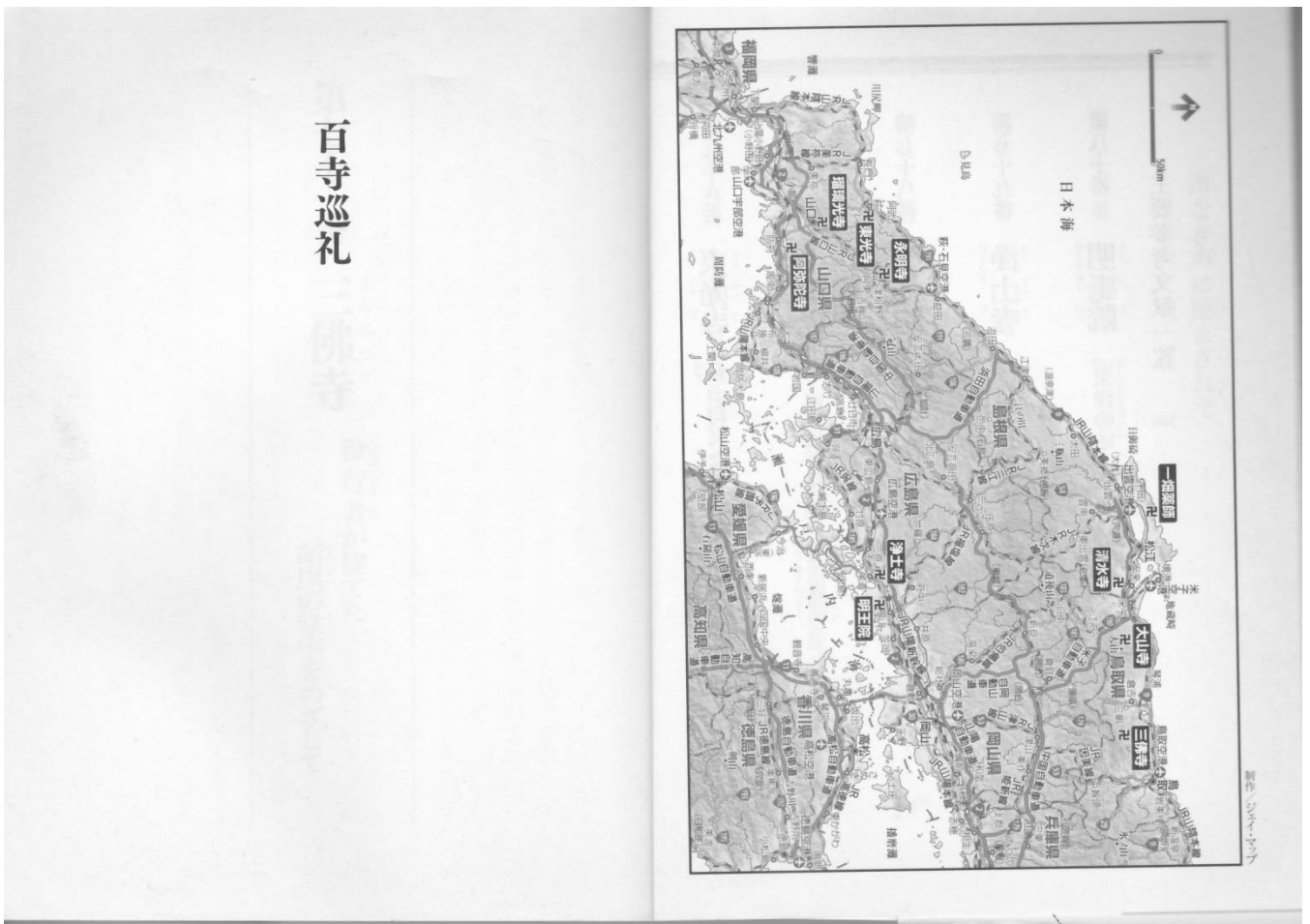
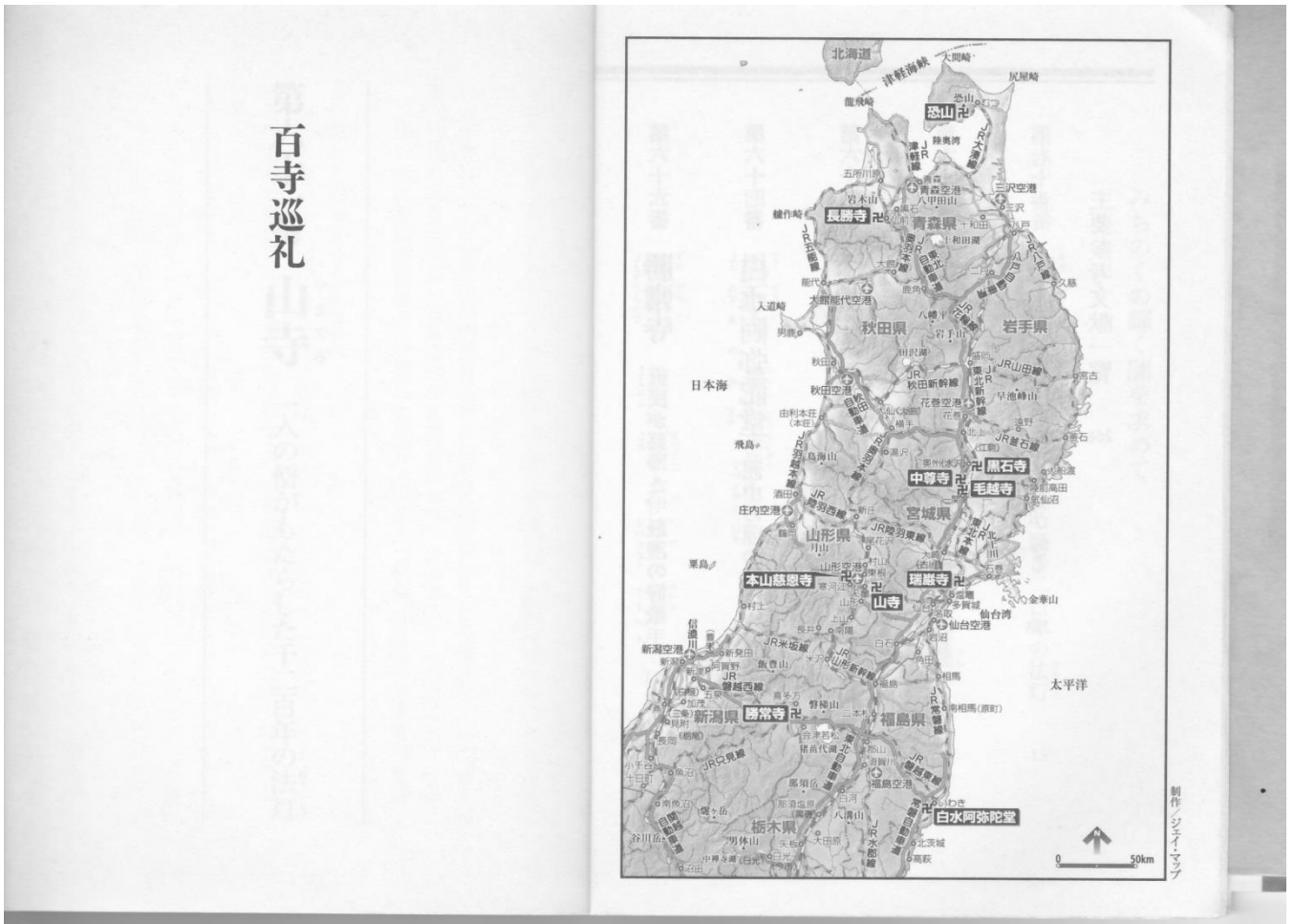


百寺巡礼



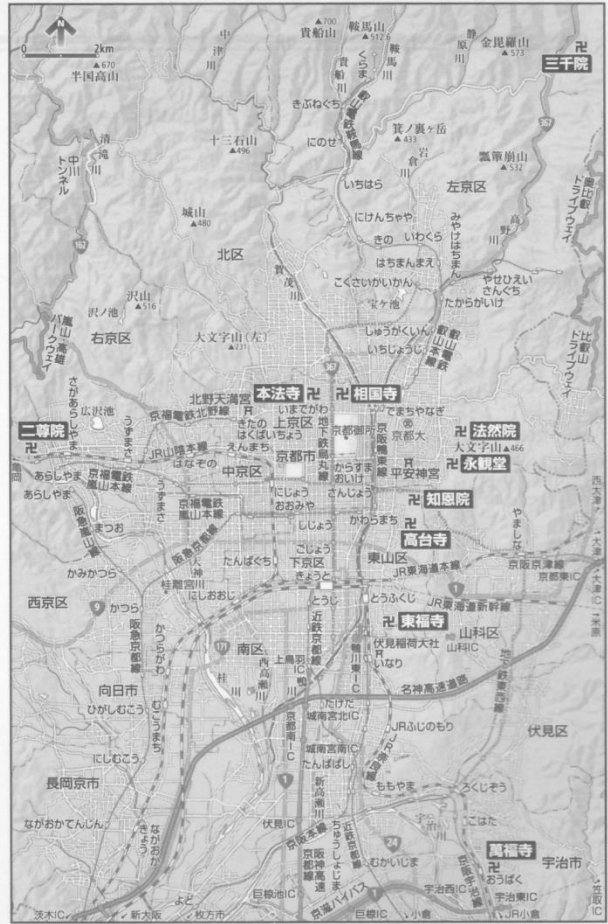
百寺巡礼



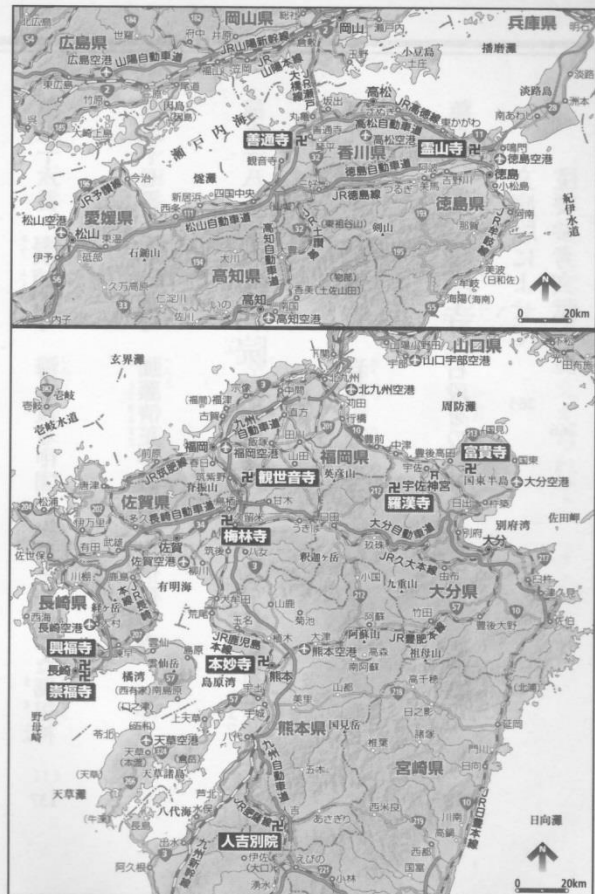




百寺巡礼



百寺巡礼



『百寺巡礼』文庫全十巻の完結にあたって、百寺の旅の記憶が、それぞれの巻のページをめくるごとに、あざやかに心によみがえってくる。

旅の友として、ポケットやバッグに収めることができる文庫の刊行を、いちばん心待ちにしていたのは、だれよりも私自身である。

いま、荒涼とした世相のなかで、私たちにみずみずしい時間をあたえてくれるのは、寺とその周辺の風土であり、歴史と、人びとの思いだ。

ささやかなこの一冊を手にして、いったいどのような人が、どのような旅を体験しているのだろうか、ひそかに想像をめぐらしている。私もまた、その一人でありたいと願いつつ。